

7/19 福井

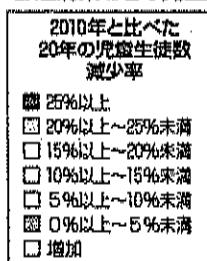
小中生10年で100万人減

学校統廃合 学びの確保課題

少子化の影響で、小中学校に通う児童生徒が大幅に減っている。2020年は全国で約956万人となり、10年より100万人近く減少。国の統計基準で、10年間で児童生徒が30%以上減った自治体数を共同通信が調べたところ、全国1892市区町村のうち3割が上回る1151市町村で児童生徒が減少した。特に都部では過疎化も相まって、学校の統廃合（☆NEWSの會議）や休校が加速。小中学校は20年に2万9793校と、10年間で約3千校も減った。

【4回】[教題深層]

都道府県ごとの児童生徒数減少率



※文部科学省「学校基本調査」に基づき作製



福井県は10年間で児童生徒数が12.9%（9202人）減少した。

減の6万2060人。学校

福井は9202人減

児童生徒数が極端に少ない小規模校は多数が参加する部活動ができないなど学びの機会の確保が課題で、自治

主体工夫や差別の撲滅で身

を市立小中学校数の増減率を市区町村別で算出した。児童生徒数の減少率が最も高かったのは99%減少し

た福井県大越町だが、東京、福岡県など大都市圏が多いが、石川県野々市市は4045人から4

842人（20%増）、長野県南安曇村は1501人（6%増）と遅れて増加した自治体もある。都市部のベッドタウンとして発展したほか、千葉県匝瑳市を除く取り組みが評価されたケースもある。

都道府県別の減少率では、青森と福島が25%以上、秋田、岩手が20%以上と東北地方が目立つ。増加は東京だけだった。学校の多様化を巡っては、長野県信濃町が12年に五つの小学校を統廃合し小

小規模校 利点生かして

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター副センター長の川前あゆみ教授の話 全校の学級数が12に満たない小規模校が、小中校の過半数になりつつある。クラス替えを6年間できず「友達が増えない」との声もある一方、気が合わなくて仲良くいるにはどうすべきかを考えるようになる。1学級に40人では1回の授業で発言機会はないかもしれないが、少人数学級では何度も発言することになり、思考の深まりも育める。複式学級で上級生と下級生が学び合うことも人格形成面で意味がある。小規模の方が学校外の体験学習は組みやすい。人口減少だから駄目ではなく、今の状況でいかにプラスに発想を転換できるか、考えることが大切だ。

田、岩手が20%以上と東北地方が目立つ。増加は東京だけだった。学校の多様化を巡っては、長野県信濃町が12年に五つの小学校を統廃合し小